

おいしさ (魚)

1

テーマの設定理由

「おいしい」とは何か？ということが「おいしい」と感じる事なのか。子どもが味わって食べるという経験を本当にしているのか？という問いから、子ども自身が「おいしさ」とは何かを探究する楽しさを知ってもらいたい。

2

準備物

- IH
- フライパン
- トング
- まな板2[魚用/加熱後]
- 包丁2[魚用/加熱後]

3

食材

- 金目鯛【鹿児島県】
- 油
- 塩
- バター

環境設定



環境設定

1 導入

初めは子ども達に魚を見せ、部位の話や口、目などについて話す。

保育者からの問いかけでは「魚はどこからきたんだろう」「誰が捕まえたんだろう」など魚からうまれる疑問を子どもたちと考える。

環境設定

2 魚を捌く

このままでは食べられないから、どうすれば食べられるようになるか問いかける。お腹や頭、骨を外していきゆっくり食べられる形に切りわけ作業を行う。



環境設定

3 変化の観察

クイズ形式で器具などの名前を問いかけていく事で言葉の育ちを促す。調理に使うIHとフライパンに関して「触らないで」と伝えるのでなく包丁や熱源の危険性を一緒に考えていく。調理前と調理後の変化を1人1人が感じられるように、フライパンに入った状態で子ども達に見せて周る。この際もう一度子ども達と熱源に触れるとどうなるかを一緒に考え、注意喚起を行う。保育者からの問いかけでは断定的な言葉は最初は使わず「どんな色かな」「どんな形」「これは何かな」などの"問いかけ"と子ども達からの表現を待つ"間"を大切にを行う。



環境設定

4 共食

大人も子どもも関係なく、1人の人間としての食べた感想をお互いに問いかけ「どうだった？」ながら共食する。想像やイメージと違ったのか同じだったのかなど言語表現を促す。



環境設定

5 活動後

活動が終わった後にすぐ行うことで、興味や探究を維持できる。

掲示や絵本なども用意することで活動がより深まる。



子どもの姿

目が大きいことや、口が大きく開くこと、骨があることに驚く姿がありました。

導入

「今日はカニさん？」「今日はりんごだよ」などと話しながら活動を楽しみにしていたにこさん。キンメダイが出てくると、「おさかな！」「つかまえたの？」「うみでつかまえたの？どうやって？」「ばしゃん！ってつかまえる？」とたくさんの言葉が飛び交います！口やヒレがあることを広げたり動かししたりして見せると、すごい！という声や、こわ〜い…と一歩下がるような反応もありました。



こわい、と言いつつも興味は強いようで、「さわりたい！」「積極的な姿がありました。ラップの上からみんなでツツツ…」

たくさんの包丁を使って捌いていく場面では、「かわいそう…」と魚に共感する声が上がりましたが、「かわいそう、だけど、でも、このままだと食べられない」と共感しながらも食べるためには仕方がない、と割り切るような声も上がりました。「いたそう」というお友達に、「いたくないよ？」ともう生きていないから痛くないんだ、という自分なりの考えからでしょうか、やりとりを返す姿もありました。内臓を取り出す場面では「きもちわるい…」といいながらも身をのりだしてじっと観察する様子がありました。



たくさんの包丁が出てきました。用途によって使い分けると、ちっちゃーい！とその違いをみつけて反応する姿も。



変化の観察



切り身を見て、「これやくの？」「やくのだいすき！」と次の工程を考えて質問したり、思いを伝える姿がありました。「目もやくの？」と残った部位が気になったのか尋ねていました。フライパンで焼くと、その音をきいて、「じゅじゅじゅ〜！」と言いつつジャンプ！！大盛り上がりです。バターがでてくると、「おうちにも、バターあるよ」と教えてくれる姿もあり、バターが熱でゆっくり溶けて泡立つ様子を、じっと眺める様子がありました。バターの香りか、キンメダイの焼けた香りか、香ばしい香りがしてくると、それに気づいて「りんごのにおいする。」と自分なりの経験の中での似た香りを思い出して、話してくれる様子もありました。



「バターちっちゃくなっちゃった。」
「オレンジになった！」
溶けたバターや、キンメダイの焼き色の変化を発見し、口々に発言するにここさんです。

共食

お魚さん（キンメダイ）に感謝して、いただきます！



焼けたキンメダイを包丁で切ると、「やった！食べてみるんだ！」「おいしそう～」と颯爽と椅子に戻っていく子どもたち。待っている間は、「お腹すいちゃったなあ～」とお腹をだしてさすりながらアピールしていました。笑

ご挨拶をして、パクリ！



前回のカニとは違い、やはり見慣れた食材だからか、口に運ぶまでのスピードがあっという間な姿が印象的でした^^

お食事後、残ったキンメダイの部位をみて、どうするの？と気になった様子。「うみにかえそう！」とはるきくんが提案する姿もありました^^



食べ終わったあとはしっかりお片づけ。大人のお皿も手伝ってくれました^^



まだまだ食べ足りない様子も…^^



もっとたべたいなあ…

ごちそうさまでした♪

活動後

お部屋にあったパズルもお魚があったと思い出したようで、早速手に取ってやってみます。



キンメダイ、あったよ！

活動後には早速おままごとゾーンへ。ちょうどいい形の積み木を見つけてきて、バターに見立ててお料理が始まりました♪

バターが溶ける様子が印象的だったんですね。その後の遊びに、子どもたちが思ったこと感じたことが表現されるな、と何回か活動を行って感じました。



活動で覚えた「キンメダイ」を発見していました。



振り返り

保育者 の 気づき



先生コメント

子どもたちにとって身近な食材である魚（キンメダイ）が題材だったこともあり、初めから「おさかな!」「なんで?海で捕まえたの?」「どーやって?」など今回ならではの発言がたくさん聞こえた場面はほほえましく、大人もふっと笑顔がこぼれました。

園の昼食にもよく出るお魚ですが、丸ごとの姿を見るのは子どもたちにとって貴重な体験だったようです。

ヒレが動く様子に身を乗り出して興味深く見つめる姿が見られました。反対に、大きく口が開く場面では驚いて後ずさりし、「こわい…」とつぶやく姿も。そんな中、「こわくなっちゃったの?」「だいじょうぶ、だいじょうぶ。」と気にかけて、寄り添うやりとりも見られ、いつのまにかこんなやりとりができるようになったのだなと関わりの育ちを感じて嬉しく思いました。

また、「切ったらかわいそう」「でも切らないと食べられないよ」と葛藤する発言もあり、食べることや命について、子どもなりに感じ考える姿が印象的でした。身近な食材で共感しやすかったこともこの姿につながっているのではないかと感じます。

今後も本物との出会いを大切にしながら、感じたことを言葉にし、さまざまな発見や気づきをお友達と分かち合う経験へとつながっていかれたらと思います。

修行



前回に続き、“命を頂く”というテーマがねらいのひとつに入っていましたが、前回のサワガニと今回の魚には明確な違いが見て取れました。サワガニは“食べ物”としての認識がそれまでになかったのに対して、魚は食べ物としてとても馴染みのある食材でした。なので、サワガニの時は揚げていざ食べる段階でも、構える様子や、怖がる様子もありました。しかし魚に関しては、捌く段階までは「かわいそう」と口々に言いながら構えて見つめる姿がありましたが、よく見る切り身の状態になってからは、そんな気持ちはどこへやら、「早く食べたい!」「美味しそう!」というワクワクに変わりました。切り身の状態以降は、子ども達の中の“食文化”として根付いていたのでしょうか。やはり、地域に根付いた“食文化”や“経験”は、感想や感覚にとっても大きな違いが出てきますね。南米の子ども達が、カメをガツガツと捌いて食べているのを思い出しましたが、“食文化”はやっぱり面白いテーマですね!

坪井